

新たな学びやでともに学ぶ

有家小学校 開校



新しい有家小学校の校章



有家町の「あ」を図案化した旧町章を基に、全体の丸みは円満・融和を、上部の尖部は統合する3つの小学校の躍動・向上を表しています。

校章の金色は、子どもたちの光り輝く未来への願いを、また、えんじの色は、大地を表し、子どもたちの健やかな成長への願いを込めています。

4月、有家地区の3校(有家小、蒲河小、新切小)の統合による「新」有家小学校が誕生します。有家小、蒲河小、新切小の歴史と伝統は、新小学校へと引き継がれ、新たな歴史を刻みはじめます。

地域の皆さんや関係者の協力のもと完成した新校舎は、児童が利用しやすく各種活動や学年を超えた交流に配慮した設計がされています。

正面玄関を入ると開放的で見渡しやすい、移動のしやすさが考えられており、採光や風通しなどを配慮した普通教室、多様な学習形態に対応できる多目的ホールなど、子どもたちが快適に学習できる環境が整えられています。

また、屋上には太陽光発電パネルが設置され、環境への負荷軽減を図るとともに環境教育への活用も考えられています。

新たな学びやで、のびのびと学習する子どもたちの笑顔あふれる光景が目に見えます。



普通教室



多目的ホール



正面玄関



太陽光発電パネル



プール



図書室

新切小学校 145年の歴史に幕 2月7日 閉校記念式典開催



名所「鮎婦りの滝」をはじめ、豊かな自然に囲まれた新切小学校は、明治9年に開校し、恵まれた教育環境の中で教育活動に取り組んできました。

特に、さつま芋の栽培・収穫を通じた学校行事「八里祭り」は、学校・家庭・地域が一体となった行事として愛され続けてきました。それらの功績が認められ、平成24年には、日本PTA全国協議会表彰および長崎県PTA表彰を受賞しました。

保護者・地域の皆さんの深い愛情に育まれた思い出は、新切小学校で学んだすべての人たちの心の中で、これからも輝き続けます。

蒲河小学校 147年の歴史に幕 2月14日 閉校記念式典開催



明治7年に開校した蒲河小学校は、眼前に有明海、背後に雲仙岳と、自然豊かな教育環境の中で、地域と一体となった学校づくりが推進され、地域とともに発展してきました。

数多くの優秀な人材を輩出してきた蒲河小学校で学ぶ子どもたちは、地域や保護者の深い愛情に包まれ、高い志をもって多くのことを学び、心豊かに成長してきました。図書ボランティア活動や栽培活動などの実践は、他の小学校のモデルとなるもので、平成26年には日本PTA全国協議会会長団体表彰を受けました。

これまでの長い歴史と伝統は、蒲河小学校で学んだすべての人たちの心の中で、いつまでも輝き続けます。

有家小学校 148年の歴史に幕 2月21日 閉校記念式典開催



有家小学校の校歌は「青雲にそびゆる普賢のけだかい姿不知火きらめく有明の海」で始まります。この恵まれた環境の下で、明治6年開校以来、多くの子どもたちが心豊かに成長してきました。

平成26年には、優れた「地域活動による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰を受賞しました。現在も、多くの地域の方々の御支援と御協力により実施されている通学合宿などの学校支援活動は、南島原市内はもちろん、県内の他地区のモデルとなるものでした。多くの子どもたちが地域住民から愛された有家小学校は閉校しますが、これからも、たくさんの人たちの心に灯をともし続けます。